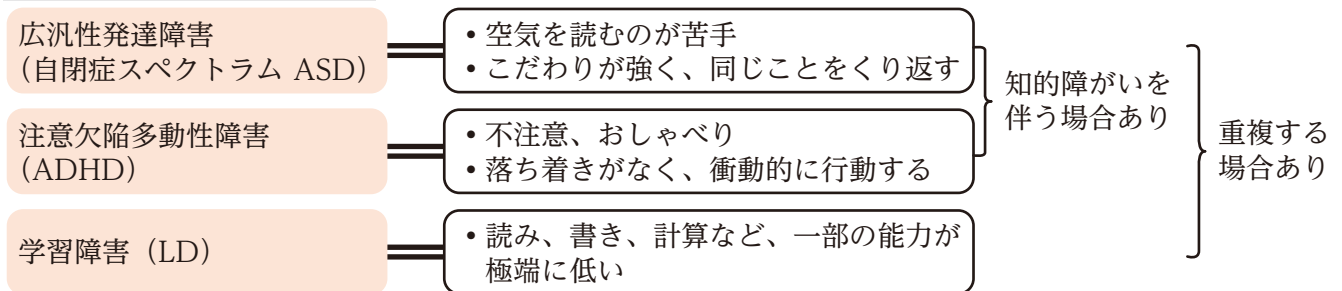


皆さんは、「発達障がい」という言葉を見聞きしたことはあるでしょうか。発達障がいはその特性から、時に誤解を招いてしまうことがあります。今回は正しい理解と、発達障がいを有する方がどのようなことに困り、どのような配慮が必要なのか等についてお伝えします。

発達障がいとは

発達障害者支援法において、発達障害とは「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常、低年齢において発現するもの」と定義されています。

発達障がいの分類と主な特性



注目したいのは、あくまで脳機能の障がいである、ということです。脳機能の障がいは、生まれつきのものであり、「〇〇が悪かったから」という、特定の原因がある訳ではありません。


誤解されやすい

発達障がいを抱えている方は、得意・不得意の差が大きく、コミュニケーションや人付き合いが苦手なことが多いです。ただし、個人差があり、同じ障がいのある方同士でも、まったく違う印象を受けることがあります。さらに、同じ人に複数

の障がいが表われたり、症状や困りごとに個人差があったりするため、「自分勝手」、「わがまま」、「困った人」などと誤解され、敬遠されることも少なくありません。また、親のしつけや教育の問題と捉えられることもあります。

どんなことで困るのか／どう配慮すればよいのか

代表的なものを一部ご紹介します。発達障がいの方は、「困った人」ではなく、「困っている人」です。

特徴・困りごと	配慮のしかた
コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> • 遠回しな表現、比喩、例えが伝わらない • 空気を読む、人の気持ちの理解が難しい • 音は聞こえるが言葉を理解するのが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> • 「あれ」「そこ」「少し」などのあいまいな言葉を使わず、具体的に伝える • 見て分かるように、絵や図で示す • 困っていることはないか、声をかける 
物の見え方 <ul style="list-style-type: none"> • 視野が狭く一部に集中してしまう • 物をなくしやすい • 多くの情報が一度に入ると混乱する 	<ul style="list-style-type: none"> • 物の置き場所を決めておく • 混乱したときは、静かな環境で休む • どんなときに混乱しやすいか確認し、対応策を考える
感覚・からだ <ul style="list-style-type: none"> • 音、におい、光、触覚などが敏感 • 座る姿勢が崩れやすい • 力の加減が難しく疲れやすい。不器用 	<ul style="list-style-type: none"> • 苦手なものを遠ざける。耳栓やサングラス等を活用 • 「〇時に大きな音が鳴る」等、あらかじめ伝えておく • 姿勢や力加減は、障がいの特性。本人がふざけている訳ではなく、自分自身の力でどうにかなるものではない

相談窓口

ご本人やご家族、関係機関の方の相談先として、ぜひ下記の窓口をご活用ください。

機関名	相談対応日時	住所	電話番号
市障がい児者相談支援センター	月曜日から金曜日 (祝日、年末年始を除く)	笹原 26 (社会福祉課内)	(37) 9970
栃木県発達障害者支援センター ふおーゆう	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分	宇都宮市 駒生町 3337-1	028(623)6111